

イチゴでアザミウマ類の発生が多くなっています。

施設内をよく観察し、アザミウマ類が発生している場合は、速やかに薬剤防除を実施してください。

[現在の状況]

3月中旬現在、イチゴにおけるアザミウマ類の寄生花率(本年値14.2%、過去7年平均値2.4%)は平年より高く、発生地点率(本年値70%、過去7年平均値33%)は平年よりやや高い～高い(図1、2)。気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

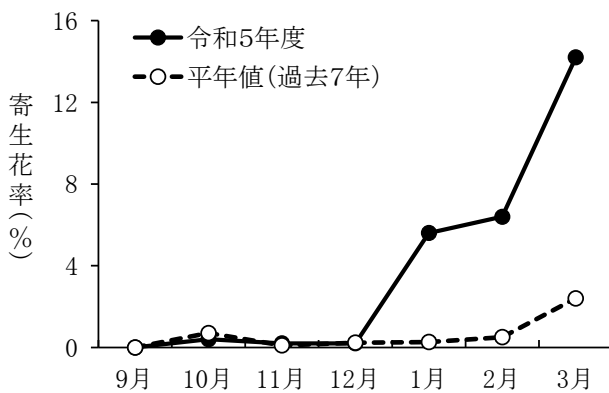


図1 アザミウマ類の寄生花率の推移

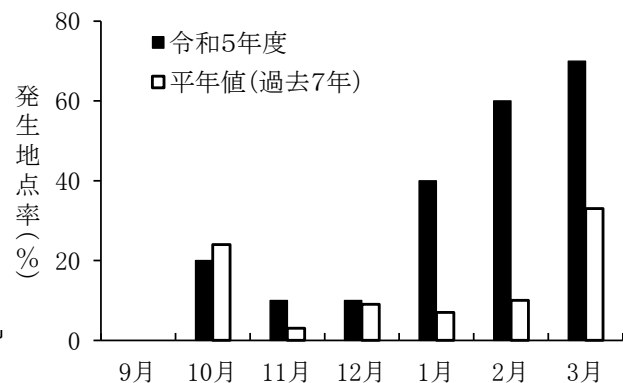


図2 アザミウマ類の発生地点率の推移

[防除対策]

- ① アザミウマ類は果実被害を発生しやすいため、花をよく観察し、発生している場合は下表を参考に速やかに薬剤防除を行う。
- ② 防除の際は、薬液がアザミウマ類の寄生部位である花にかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
- ④ 青色粘着トラップを10a当たり100枚以上設置すると、アザミウマ類の密度低減に有効である。

表 イチゴのアザミウマ類に登録がある主な散布剤(令和6年3月15日現在)

IRACコード ¹⁾	薬剤名	希釈倍数	適用病害虫	使用時期	本剤の使用回数
4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	アザミウマ類	収穫前日まで	2回以内
5	ディアナSC	2500～5000倍	アザミウマ類	収穫前日まで	2回以内
13	コテツフロアブル	2000倍	ミカンキイロアザミウマ	収穫前日まで	2回以内
15	マッチ乳剤	1000～2000倍	アザミウマ類	収穫前日まで	4回以内
23	モベントフロアブル	2000倍	アザミウマ類	収穫前日まで	3回以内
34	ファインセーブフロアブル ²⁾	1000～2000倍	アザミウマ類	収穫前日まで	3回以内

1) 殺虫抵抗性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

2) ヒラズハナアザミウマに対しては他のアザミウマ類と比較して防除効果がやや劣るので注意する。